

おおくま

大熊町役場 会津若松出張所

〒965-0873

福島県会津若松市追手町2-41

TEL. 0242-26-3844(代表)

議会事務局 内線:521



幼小中合同運動会

大玉特急便

10月1日 大野・熊町小学校校庭(旧河東第3小学校)で開催されました。子どもたちの元気な声援は、晴れ渡った秋空に響いていました。笑顔のとても素敵な1日でした。

○平成22年度決算認定

○平成23年度補正予算

○町政一般質問

○質疑あれこれ

○4年間を振り返って

○議会活動一覧

4年間「議会だよりおおくま」をご愛読いただき
ありがとうございました

放射線測定器を購入

スクールソーシャルワーカー派遣事業

スクールソーシャルワーカーとは、児童生徒や保護者と学校との関係づくりを行います。

また、学校と関係機関との問題解決や軽減を図ることも、ディネーター的な役割も行い、教職員のサポートとなるスクールソーシャルワーカーが配置されるようになりました。

仮設住宅に消火器配備

仮設住宅の防災のため、消火器を備えます。また、事業東日本震災寄付金により購入され、同時に使用ついでに1戸に1台の消火器も備えられます。

放射線測定器

県の補助事業を活用し、放射線測定器と個人線量計を整備するものです。

電子式線量計を妊婦さん、3歳未満の子供へ657台。

バス式線量計を3歳以上、中学生までを対象に724台。

汚染検査用GM管式サーベイメーターを20台購入します。

また食品放射能測定器1台を購入します。

スクールバス運行

いわき市の仮設住宅でスクールバスを運行します。

除雪費用

仮設住宅の駐車場、道路の除雪を行います。

定例議会

教育委員任命

小田 貴浩 氏 13対0で可決

生年月日 昭和38年1月29日

住所 大熊町大字下野上字金谷平156番地

幼稚園で給食開始

11月より幼稚園で給食が始まります。10月17日よりパン、11月より実施となります。

臨時議会

副町長再任

鈴木 茂 氏 11対0で可決

生年月日 昭和24年1月2日

住所 大熊町大字野上字諏訪98番地

※欠席者1名 退職者1名

屋根養生補修工事追加しました

9月30日に終了予定の工事を11月30日に延長しました。

内容は屋根のシート養生を500戸から921戸へ、新たに窓養生を321戸追加するもので1億4020万円を追加しました。

平成22年度一般会計70億6943万円を認定

平成23年9月定例会は、9月26日～10月5日の10日間の会期で開催され、平成22年度決算認定や平成23年度補正予算、条例改正など30議案が審議され、全議案可決されました。

鳥海代表監査委員のコメント

に本興 事明主 がし規に 財の等、東
取位・現 業ら財以 見て模東収 政中、東
りの将状 計か源上 えい償京入 運、世日
組原来に 画でがの なる却電に 営全界本
む点構合 であ減状 いが資力お と体で大
こに想っ のり少況 状平産株い 言とも震
と立つた 歳、しか 況成の式て えるし類災
をつく投 出よてら、 と2課会固 概み原
願たり資、 をりい、 な3税社定 。概み原
う。政、町 要精く税 っ年額に資 ねな子
運住の 望査こ収 て度が係産 健い力
営民復 るすしと等 いは増る税 全震災
な災害

平成22年度決算支出金額

一般会計	70億6943万円
特別会計 (12事業)	20億3992万円

平成22年度の主な事業

保育所改修	1億5106万円
大野小冷房設備工事	6353万円
歩道新設改良工事	9151万円
スポーツセンター管理	1億1390万円

財政指数分析評価

基金状況

町の財政力	区分	指数	概要
	経常収支比率	60.7%	70%を超えないのが理想
	実質公債費率	-0.3%	10%以下が健全
	財政力指数	1.244	1を超えると不交付団体

財政調整基金 46億3601万
など全23基金
合計 103億7836万円

平成23年度町税の課税について審議

東日本大震災、原子力災害により被災された方にたいする町税の軽減を図るため、減免に関する条例を可決しました。

○軽自動車税

○固定資産税

○個人、法人町民税

○国保税

一般質問

吉岡健太郎 議員

吉岡 町民が先の見えない不安な避難生活を送っているなか、町長は一期目の任期を満了しようとしている。そこで、大熊町町長選挙に立候補して引き続き、自らが町民の先頭に立ち大熊町の復興をリードしていく考えがあるのか。

町長 今後、原子力災害が収束し、除染が進み、これから復興・再建の正念場であると認識している。

私の町政執行に対し、多くの批判、不満の声も届いている。町民の皆様方のご支持を頂ければ、引き続き全力を傾注し、大熊町の復興のために取り組んで行きたい。

松永秀篤 議員

松永 (1) 県の事業で行われる内

部被ばくの検査は二か所だけで、町民には経済的にも肉体的にも大変な負担になる。これからは継続的なデータ管理が必要になるので、自前の測定器が必要では。

(2) 町民懇談会は、県内でも実施してほしい。

(3) 姉妹都市のバースト市から多額の見舞金を頂いた。震災で中止になった希望の翼を実施できないか。

(4) 双葉地方水道企業団に今まで同様に負担金を出さなければならぬのか、職員の人件費等はどうなるのか。

(5) 仮設住宅には、空き家がある。その対処方法は。

町長

(1) 機器の購入だけで検査ができるのではなく、専門家が必要になるため単独で機械を購入するのは難しい。県からの支援機器五台は、移動式か確認できていないが会津地方に設置するよう強く要望する。

(2) 県内も必要に応じて開催していく。

(3) 歳入の確保が厳しい中、

家庭の負担も軽くない。百三十五名の区域外就学や転校生がいる現況では実施は難しい。

(4) 広域的運営をしている。関係町全体の課題として取り組み、今後の方向を決定して行く。

(5) 再募集とあわせて、緊急に入居したい希望者を対象に対応している。

仲野 剛 議員

仲野

(1) 現在、消防団は活動が休止になっている。活動の再開時期や、報酬、退職金についても見通しが立たない。団員の中には次の生活を始めた方もいる。一度調査し、転出された方にはこれまでの労をねぎらい、退職できる環境を整備し、今後の復興の際には実際何名の方が活動できるかを把握しておく必要があるのではないか。

(2) 仮設住宅には消火栓がない。有事の際には対応できないことが予想される。お互いが助け合う環境、住民相互

の防災が必要ではないか。

町長

(1) 帰還後の消防団体制が町民の安全安心につながるかと考えている。仕事の関係で大熊町から転出せざるを得なくなった団員の方には早急に退団の手続きを取り退職金を払いたいと思う。

(2) 一戸一本の消火器を配備したい。また、防災意識の高揚については自治会等を中心にお願したいと考えている。

千葉幸生 議員

千葉

現時点での国の計画では、町民は長期間放射能と付き合っていかなければならない。

(1) 復興意欲のある町民による除染組合を立ち上げ除染・復興作業を計画・実施してはどうか。

(2) 町民に放射能や放射線計測や除染方法など技術的な研修を町が主導して実施してはどうか。

(3) 放射線測定器を希望す

る町民には購入補助金を出してはどうか。

(4) 町民は、将来にわたって被曝・健康管理が必要となる。早急に管理システムを作り上げてはどうか。

町長

(1)、(2) 国の除染ロードマップと帰還目標線量を決定し復帰計画を策定する。除染作業には、除染組合の立ち上げや各種研修の実施を通して安心して協力できる体制を検討していく。

(3) 県補助事業で、十五歳未満者や妊婦さんにはバツシ線量計を早急に配布する。その他希望する町民には、放射線測定器を購入し貸与する。

(4) 町民に対する管理システムは必要である。県の調査管理内容等の研修を行い安心してできる手法を早急に検討する。

木幡 仁 議員

木幡

(1) 一民間企業の職員が役場内に常駐していることは

非常におかしい。東京電力には役場から出て行ってもらいたい。

(2) 現在会津若松市に役場機能が存在する以外はいわき市に連絡事務所があるだけ。郡山、福島地区にも支所又は連絡事務所を開設することを提案する。

(3) 地元に住む町民との対話を提案する。

(4) 幼児は国の宝である。現在の保育所の状況はどうなっているのか。

町長

(1) 東京電力賠償チームが常駐しているのは事実である。あくまで、避難を強いられている町民の皆様への支援の円滑化を第一と考えている。

(2) 現時点では連絡事務所の設置計画はないが、状況に応じて計画していく。

(3) 直接、顔をあわせて、現在の町の考え方を対話することが大切なので、状況に応じて計画していく。

(4) 通常保育業務の実施は不可能に近い状態である。現

在の一時預かり保育のサービス内容を出来る限り拡充し、継続していきたい。

堀川百夫 議員

堀川

(1) 町民の二巡目一次入りの、マイカーで帰宅する世帯主の位置づけについては、同居中や同敷地内に居住する家族を問わず生計が別の場合は二世帯分離を認め一人でも多くの家族員を我が家に帰せないか。

(2) 原発事故賠償請求書手続きの複雑さに困惑し、右往左往する町民の救済措置として町行政組織の見直しを行い、専門窓口を設置し対応できないか。

(3) 今回の大震災による住民の「心の健康」に対する心のケアに重要性が世界中から指摘されている。特に仮設住宅に入居する高齢者が心配なので、自治会からの要望は最大限尊重すべき。

町長

(1) 今回は車の定員まで帰宅できるので、予定通りです

が三巡目で対応を考えたい。

(2) 大震災以来組織・体制については、その都度臨機応変に対応している。個々の賠償問題に職員が対応するのは不可能である。

(3) 各仮設住宅の自治会長からの要望については可能な限り実現させたい。

鈴木光一 議員

鈴木 避難者の災害前の生活と環境を国と東電は返すべきである。

(1) 帰宅タイミングは、除染が完了し、壊れた燃料の取出し、保管終了するまで戻るべきではないと考えるが。

(2) 全国各地に避難している住民をどうつなぎとめるのか。

(3) 災害復旧工事では、原住力災害と地震災害のどちらを優先していくのか。

(4) 原子力対策事業について 昨年質問し、万全であるとの答弁があった。今回、十分な災害対策を実施したか。

町長

(1) 復帰計画は、誤りのな

い最善策を見出ししていきたい。

(2) 大熊町に帰還しないと選択された方の十分な支援策を求めていく。

(3) 災害復旧は発電所事故の収束、放射能除染、ライフラインを甲乙付けず進めていく。

(4) 国、県との通信手段が途絶し対応が後手になった。災害対策は十分に機能しなかったが、今回の反省を踏まえてしっかりとした防災マニュアルを確立する。

加藤良一 議員

加藤

(1) 高齢者サポート施設が松長仮設住宅を拠点に開設されたが、一拠点で居住者への支援は十分か。規模に応じた小規模施設の設置を検討してはどうか。

(2) 町の財政的負担は。
(3) いわき市への設置は。
(4) 仮設のグループホーム設置できないか。
(5) 仮設特別養護老人施設の設置を検討してはどうか。

の設置を検討してはどうか。

町長

(1) 松長近隣公園だけを対象にしているのではなく、会津全域をサービス対象に考えている。従って小規模施設は考えていない。

(2) 県と町社協との委託契約であり負担はない。

(3) 人的に難しい。地元の社協や介護事業者との委託契約等で考える。

(4) 定員九名で「やすらぎの里」を開所する。

(5) 現在一八九名が県内外の施設を利用している。今後増えると思う。事業者の選定、人の確保、資金負担等いざ設置になると難しい。県内施設への入所を進める。

質疑あれこれ

今後、現地立入調査や本格除染などの機会が増えてきます。貸出も含め調整し、有効に活用していきたい。

町長

幼稚園給食は給食用品を購入し、10月17日から牛乳とパンで対応し11月1日から完全給食を実施する。

教育総務課長

今後、検討していきたい。

区長を通じて公募した。

質問

サーバイメーター購入について。空間線量を測定するものや、表面汚染を測定するものがあるが、今回購入するのはどのようなものか。また一般への貸出は行うのか。

質問

「郵便事業東日本大震災寄付金配分576万1千円で使途は消火器、車いすの購入に充てる」との説明であったが、購入品の指定はあったのか。個数と配分先は。また備品購入費では車いす減額になっているが説明を求む。

質問

長期化する避難生活の中、他県、他地方で死亡者の火葬代を町として考えているのか。

質問

町長は脱原発を表明するべきではないか。

質問

線量計は一日中身に着けるのか。その管理方法は。線量計の数値は見えるようになってきているのか。

住民課長

今回購入するサーバイメーターは汚染検査用のGM管式を20台予定している。各学校、スクールバスに配備する予定で貸出については考えていない。

町長

できるだけ負担の少ないかたち、広域的に考えながら検討していきたい。

質問

2巡目の一時立ち入りの添乗員採用について、どのような形で広く大熊町民へ公募したのか。

町長

線量計は常時身に着けておくもの。管理は、県が個人の許可をとって管理する。電子式線量計では、個人の数値を見ることが可能。

バッジ式線量計は常時線量を確認できないが、3カ月に1度程度の頻度で被ばく線量を計測し、県が管理する。

企画調整課長

今回計上したのは、表面汚染検査用GM管式を100台、人体に影響する空間線量測定用シンチレーション式を10台、多目的に測定可能な電離式を10台、被ばく管理用のポケット線量計を30台です。

質問

小学1年生の授業後の夕方まで学校にいる時間が長い、スクールバスの増便は考えられないか？

生活環境課長

当初、県事業の委託先である株式会社サポートが、ハローワークで公募したが応募がなかった。実施期日が迫ってきたので、委託会社では、仮設住宅の自治会長や行政

質問

幼稚園費の給食の予算について、その内容と時期はいつからなのか。

4年間を振り返って

鈴木光一

住みたい街づくりを公約に掲げ、町政に対する要望、提言を適時行いました。さまざまな試練がありました。職務を遂行できたと自負しております。

堀川巨夫

原子力エネルギーにふさわしい町づくりを旗印に四年前町議に立候補したが、今回の原子力災害によって「共生」の道が絶たれた。町民の命と暮らしを守り町の存亡をかけるため東京電力と死闘を重ねようとは、この世の無常さを憶（おぼ）える。

加藤良一

町の発展・住民福祉の向上のため、自治法・町の条例・様々な制度などを学び、議員として中味の濃い時期に活動をさせていただきました。

木幡仁

最初は言葉が分かりにくかった。「請け差」とか「精査」とか、又答弁の中で「検討します」「前向きに考えていきます」とか。独特の予算書も分かりにくい。足りなければ、補正で繰入れていく。余れば補正で削っていく、など。

最後の一年は地震と津波、そして原子力災害と散々な一年だった。地震と津波はとくに終息したけども、原子力災害はいまも続く。

松永秀篤

こんな筈ではなかった！ふれあいパークのオープン、教育環境など住環境のインフラ整備が着々と整い、まさに住みよい大熊町だったのが一瞬にして崩落した。が三月十一日以前の生活に戻すために、町民が一丸となって復興に向けて努力していきます！

千葉幸生

「議会だより」の発行では、

表紙に掲載する子どもたちの笑顔の撮影には委員会全員が苦労してきました。

再び、子供たちの笑顔が絶えない町に復興できるよう頑張ります。四年間ご愛読いただきありがとうございます。

仲野剛

一番の思い出は、議会活性化で日本一の議会を目指したことです。四年間は大変長く多くの経験をしました。一般質問の準備や議会だより編集に追われ「忙しいけど充実していた」が正直な感想です。

吉岡健太郎

今期の四年間、産業厚生常任委員長を務めさせて頂きました。各委員の協力もあり県内ではまれなボーイ捨て条例の制定などに汗を流しました。

渡邊信行

この四年間、広報公聴常任委員に所属しまして、文章一

文字の重さを身にしみて分かりました。今後は大熊町の復興へ努力してまいりたいと思います。

安田トヨ

町民の生活を第一に考え取り組んできました。身近な生活の問題から、町としてどうあるべきかまで様々な課題に対応し「ありがとう」と言われ、次への活力となったことが一番の思い出です。大変お世話になりました。

石田洋一

どうしたら読んでももらえるか。どうしたら読みやすくなるか。手にとって読んでもらえる「議会だより」にするために、いろんな知恵を出した。あった広報公聴常任委員会での議論が楽しかった四年間でした。

川井利治

企業誘致のデメリット
原子力発電所による爆発事故のため大熊町はもとより双葉郡内住民が強制避難。

我が故郷のような生活が来ない事、皆さんも同様だと思います。デメリットは恐ろしい。

武内弘

四年の間、町民の皆様方には、「ご指導」ご鞭撻を賜り、無事任期を終える事ができました事に感謝申し上げます。今回、四年目にこの大災害にあい、悪夢の様な毎日が続いております。一日も早い復興を目指して頑張っております。

石田忠文

任期中に未曾有の大災害で町民の全員が県内外での避難を余儀なくされ、まだまだ復興への道のりは険しい状況ではあります。震災前の活力ある大熊町の復興に全力で取り組んでまいります。

議会活動一覽

平成23年10月31日まで

議会活動

9/2	会津若松市正副議長訪問（会津若松市）
9/8	被災自治体首長・議長と総理との会合（福島市） チャリティコンサート招待（会津若松市）
9/9	災害復興対策特別委員会
9/14	県殉職警察官合同葬（福島市）
9/16	議会運営委員会正副委員長会議 高齢者等サポート拠点『つながっぺ』センター開所式
9/20	議会運営委員会
9/22	広報公聴常任委員会
9/26～10/5	9月定例会
10/1	幼・小・中合同運動会（会津若松市河東町）
10/6～7	監査委員全国研修会（東京都）
10/7	町政懇談会（さいたま市）
10/11	全国所在議長会役員市町村事務局長会議（東京都）
10/11	町政懇談会（茨城県）
10/14	第5回臨時会
10/15	町政懇談会（千葉市）
10/17	双葉地方町村議会議員研修会（福島市） 県町村議長会理事監事合同会議（福島市） 『おみせ屋さん』開所式
10/18	町政懇談会（東京都）
10/19	町政懇談会（神奈川県）
10/20	広報公聴常任委員会
10/21	双葉地方電源地域政策協議会要望活動（東京都）
10/21	広報公聴常任委員会
10/26	町政懇談会（いわき市）
10/27	県町村議会議員研修会（郡山市）
10/27	全国所在議長会役員会（東京都）
10/28	町政懇談会（会津若松市）
10/31	災害復興対策特別委員会

議員によるボランティア活動

一時帰宅随行：9/1, 9/7 2日間 4人
車持出し随行：9/5～9/7 3日間 6人

発行責任者	委員	広報公聴常任委員会	いだま	長き	いきり	でい	一期	たん	だ当	議道	で改	望を	こ皆	号と	回3	きま	よお	第お	を原	議則	広自	平成	
	副委員																						たし
石田	川井	武内	渡辺	仲野	加藤	石田	千葉																
忠文	利治	弘行	信行	剛一	良一	洋生	幸生																

編集後記